



「麻布未来写真館」

麻布を語る会

「麻布未来写真館」分科会

平成22年度 活動報告

港区麻布地区総合支所

はじめに

本活動報告は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」(平成21～23年度)において、区民参画組織「麻布を語る会・麻布未来写真館分科会」が平成22年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」も含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本報告書に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました関係者の皆様に、心から御礼を申し上げます。

平成23年3月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

I. 分科会活動の概要	01
「麻布未来写真館」とは / 分科会活動記録	01
まち歩き(撮影ルート図) / 古い写真の収集など	02
パネル展の概要	03
II. 未来に向けた新しい麻布(作成したパネルの紹介)	05
パネルの作成	05
鳥居坂ものがたり	06
麻布の今と昔	20
麻布の名物・風物など	26
III. メンバーのことば(これまでの活動を振り返って)	31
これまでの活動を振り返って	31

区民参画組織・麻布を語る会とは

麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組みに力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組みを進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住し、勤務し、在学し、又は麻布地区のために活動したい公募区民によって構成され、平成23年3月現在、「麻布未来写真館」「基本計画協働推進」「地域情報の発信」の3つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組みを進めています。

「麻布未来写真館」とは

平成21年度から港区麻布地区総合支所では、区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組みとして「麻布未来写真館」事業を開始しました。

当事業は、麻布地区の史料を収集・保存していくことにより、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承し、将来に向けて活用していくことを目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

平成22年度は、広報紙等の募集を通じて集まったメンバーにより、撮影テーマ・箇所選定のためのワークショップ、まち歩き・撮影等を実施してまいりました。



【分科会メンバー名(平成23年3月1日現在)】

Aグループ 白井 浩之(座長)、小山 浩、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子

Bグループ 近藤 敏康(副座長)、天羽 大器、磯 和子、岡崎 純子、櫻井 綾、椿 由美子

分科会活動記録

- | | | |
|-------------|---------|------------------------------|
| 平成22年 6月 8日 | 第1回分科会 | (メンバー紹介、平成22年度の活動について) |
| 7月13日 | 第2回分科会 | (今年度の進め方について) |
| 8月 1日 | 第3回分科会 | (Aグループまち歩き：第1回撮影) |
| 8月22日 | 第3回分科会 | (Bグループまち歩き：第1回撮影) |
| 8月24日 | 第4回分科会 | (撮影結果について、グループワーク) |
| 9月12日 | 第5回分科会 | (Aグループまち歩き：第2回撮影) |
| 9月26日 | 第5回分科会 | (Bグループまち歩き：第2回撮影) |
| 9月30日 | 第6回分科会 | (撮影結果について、パネル展について) |
| 10月21日 | 第7回分科会 | (パネル展展示方法について、グループワーク) |
| 11月 5日 | 第8回分科会 | (パネル展展示詳細について、グループワーク) |
| 11月17日 | パネル展 | 港区麻布地区総合支所ロビーでの展示(~ 11/27) |
| 11月17日 | パネル展 | 東洋英和女学院史料展示コーナーでの展示(~ 11/27) |
| 11月29日 | パネル展 | ありすの杜南麻布地域交流スペースでの展示(~ 12/4) |
| 12月10日 | 第9回分科会 | (パネル展の感想等、今後の進め方について) |
| 平成23年 1月11日 | 第10回分科会 | (年度末パネル展開催に向けて) |
| 2月 1日 | 第11回分科会 | (年度末パネル展最終確認) |
| 2月14日 | パネル展 | 港区麻布地区総合支所での展示(~ 2/25) |
| 2月21日 | 第12回分科会 | (パネル展について、活動報告について) |
| 2月28日 | パネル展 | 港区役所での展示(~ 3/11) |
| 3月09日 | 第13回分科会 | (4月パネル展について、活動報告について) |

分科会活動の概要

(平成22年度の分科会活動)

パネル展の概要

「麻布未来写真館」事業の一環として、昨年度に引き続き開催した「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき各グループが作成したパネルを展示しました。

今年度は、麻布地区にて120余年にわたり教えの庭を開かれている学校法人東洋英和女学院様をはじめ、地域の様々な方々からの写真やイラストのご提供など、多大なご協力をいただき、質・内容とも昨年度にまさる展示内容とすることができました。

過去、現在、未来にわたるそれぞれ思い思いの「麻布のまち」の姿について、心を巡らせ、ご観覧いただけたかと思えます。



平成22年11月：パネル展 ポスター



平成23年2月：パネル展 ポスター

今年度はパネル展を2回(平成22年11月及び平成23年2月)、延べ5会場で開催いたしました。各会場では、分科会メンバーが各グループで設定したテーマに基づき作成したパネルや「麻布未来写真館」事業の一環として、平成23年1月に開催した「親子ワークショップ」の報告等のパネルを展示いたしました。

平成22年11月のパネル展開催にあたり、史料及び会場提供等、ご協力をいただいた東洋英和女学院様からも挨拶をいただきました。

「麻布未来写真館」パネル展の開催にあたって

このたび港区麻布地区総合支所様より「麻布未来写真館」パネル展のお話をいただきました。長年にわたりこの地で教育の業(わざ)に携わることができましたのも、ひとえに地域の皆様の温かいお支えがあってこそこの思いで、ご協力させていただくこととなりました。感謝の思いでいっぱいでございます。

東洋英和女学院は、カナダ人宣教師のミス・カートメルが麻布鳥居坂の地に、キリスト教の教えに基づいた教育をおこなうために明治17(1884)年に設立された学校です。今年で126周年を迎えました。

幸いなことに、学院は太平洋戦争の空襲時にも戦火を免れ、明治時代からの写真資料をはじめとする数多くの資料が学院史料室に保管されております。

このようなパネル展の機会を与えられ、鳥居坂の様子を様々な視点から撮影した写真でご紹介することで、皆様とこの地に対する思いを共有できますことを大変嬉しく思っております。

このパネル展が麻布地区の今後のさらなる発展のためにも意義深いものとなりますことをお祈りいたします。

平成22年11月吉日 東洋英和女学院理事長・院長 池田 守男

分科会活動の概要

(平成22年度の分科会活動)

I

パネル展の概要



平成22年11月17日～11月27日
東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 史料展示コーナー



平成22年11月17日～11月27日
東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 史料展示コーナー



平成22年11月17日～11月27日
港区麻布地区総合支所 1階 ロビー



平成22年11月29日～12月10日
ありすの杜南麻布 1階 地域交流スペース



平成23年2月14日～2月25日
港区麻布地区総合支所 1階 ロビー



パネル制作風景



平成23年2月28日～3月11日
港区役所 1階 ロビー



平成23年2月28日～3月11日
港区役所 1階 ロビー

I 分科会活動の概要

パネル展の概要

今年度はパネル展を2回(平成22年11月及び平成23年2月)、延べ5会場で開催いたしました。各会場では、分科会メンバーが各グループで設定したテーマに基づき作成したパネルや「麻布未来写真館」事業の一環として、平成23年1月に開催した「親子ワークショップ」の報告等のパネルを展示いたしました。



平成22年11月17日～11月27日
港区麻布地区総合支所 1階 ロビー



平成22年11月17日～11月27日
東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 史料展示コーナー



平成22年11月29日～12月10日
ありすの杜南麻布 1階 地域交流スペース



平成23年2月14日～2月25日
港区麻布地区総合支所 1階 ロビー



平成23年2月28日～3月11日
港区役所 1階 ロビー

親子ワークショップ

麻布未来写真館の趣旨でもある、「麻布に暮らす、より多くの人々に身近な「まち」の魅力を知ってもらい、地区への愛着を深める」ことを目的として、今回、地元企業である富士フィルム株式会社の協力のもと「親子ワークショップ」を開催いたしました。

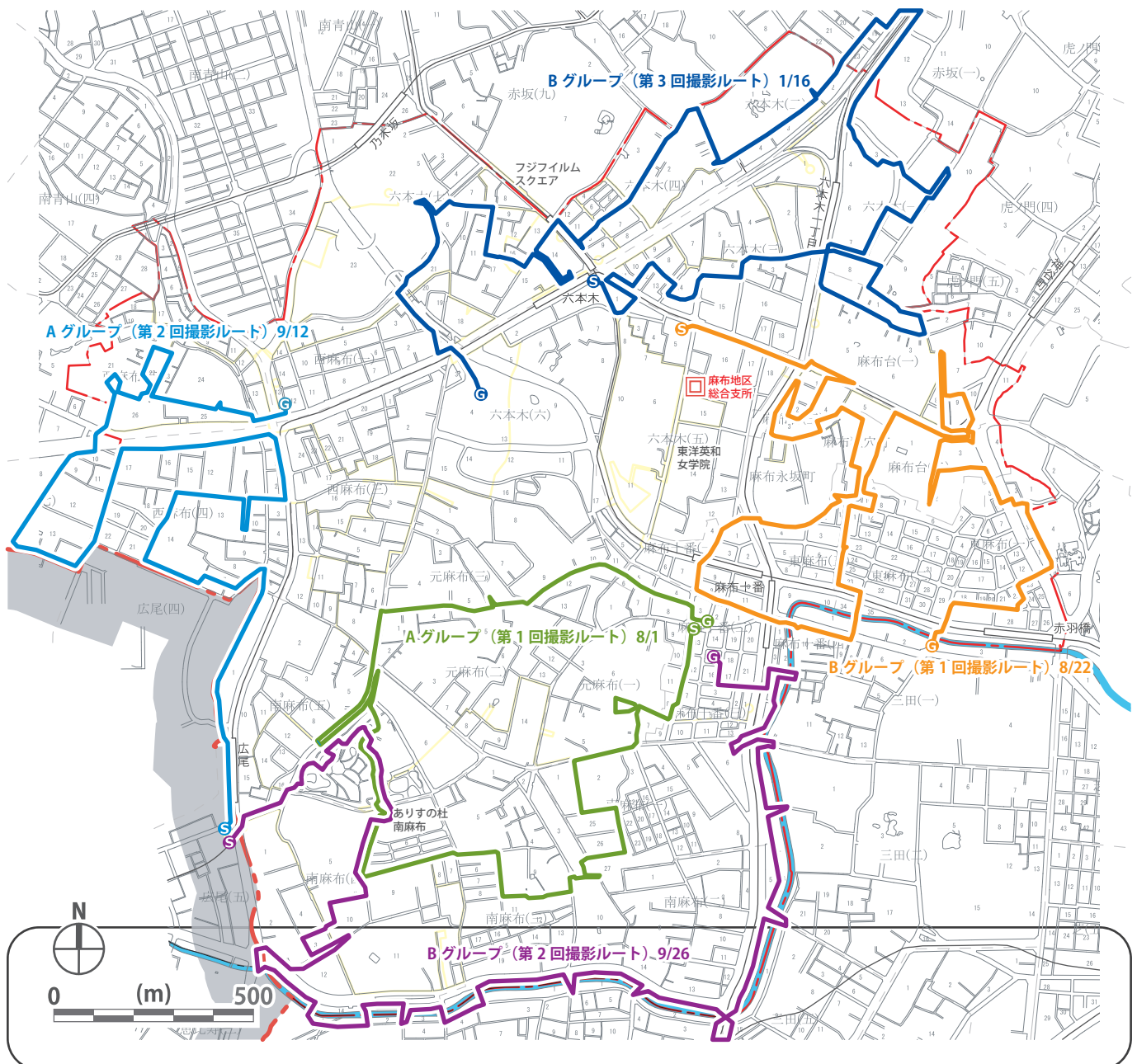
「親子による、世代を超えた昔と今の記憶の共有」・「未来に向けて記録をつづる楽しみ」

写真を撮影するプロセスには、被写体を記録するだけでなく、撮影者の記憶とともに記録し、カタチとしてつづる楽しみも含まれています。今回のワークショップを通じて、親子がふれ合いながら麻布のまちを歩き、昔と今の時間を共有するとともに、未来へ残すアルバムとして「つづっていく」ことを体験していただけたと思います。

パネルの作成

今年度の分科会活動では、パネル展に向けて、Aグループは麻布鳥居坂界限をテーマに『鳥居坂ものがたり』として、Bグループは「古川水系の生き物」や「浮世絵に残る麻布の名所」などをテーマにパネルを作成しました。

「II. 未来に向けた新しい麻布(分科会メンバー作成パネルの紹介)」には、今年度の分科会活動で、港郷土資料館などの協力のもと、写真・文献等の資料により分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



未来に向けた新しい麻布

(分科会メンバー作成パネルの紹介)

鳥居坂ものがたり (Aグループ) 鳥居坂

鳥居坂ものがたり

港区麻布地区総合支所や東洋英和女学院が置かれる鳥居坂周辺は、江戸から明治・大正・昭和にかけての歴史文化に深く関わる人々の屋敷や施設が置かれ、近代の日本において、極めて特筆すべき地区である。「麻布未来写真館」事業の『鳥居坂ものがたり』として、その一端を残された写真と共に振りかえって見ることにした。

鳥居坂の位置

鳥居坂は、六本木5-11、5-12の間に位置しています。

『鳥居坂ものがたり』では、六本木五丁目交差点から鳥居坂下交差点までを「鳥居坂周辺」として振りかえります。



外苑東通りと鳥居坂

外苑東通りは江戸時代、城の西に位置し、尾根道としての地形的環境(周囲よりも高い位置にある)から武家屋敷が軒を連ねた。尾根道として裏手はすぐに低地に向かってしまう中で、鳥居坂へのこの道は現六本木五丁目交差点から約500mの間、その高さを維持する珍しい通りであった。ゆえに外苑東通り同様、大名や武家屋敷が置かれていた。

当時の鳥居坂周辺地区の特色

1. 江戸時代、大名や武家屋敷が並ぶ一方、坂下には町人の家が並ぶような地形的配置となっていた。
2. かつて大名屋敷であった広大な土地が、明治維新後、財閥等に払い下げとなり、三井、三菱、住友の三財閥の関係者が顔をそろえることとなった。
3. 同じく、三條邸をはじめとする公家や、李王家、久邇宮家などの宮家、といった華族邸が並んだ。
4. 富裕層の人々により、著名建築家・設計者の手による貴重な屋敷や建物が建てられた。

名前の由来

右の写真は、現在の鳥居坂である。鳥居坂の名のおこりは、慶長の初期に鳥居彦右衛門元忠が坂の東側(写真では右側)に屋敷を拝領していたからだといわれている。

また、一説では氷川神社の二の鳥居があったから、あるいは三の鳥居があったからともいわれている。



平成22年：鳥居坂下交差点より鳥居坂を望む。

もともと坂は無かった

延宝年間(1673～1681年)には、この通りは突き当たりで、鳥居坂はなかった(左下図「延宝年間の図」参照)。その後、元禄12(1699)年の江戸図になって、鳥居坂の道が現われる(「元禄版の江戸図」参照)。これにより今の鳥居坂は、鳥居家の敷地の一部を道とし、元禄の頃にできたものと思われる。



延宝年間(1673～1681年)：延宝年間の図



元禄12(1699)年：元禄版の江戸図

II 未来に向けた新しい麻布

(分科会メンバー作成パネルの紹介)

鳥居坂ものがたり (Aグループ) 東洋英和女学院

東洋英和の発祥

カナダ・メソジスト教会(現在のカナダ合同教会)婦人伝道会社から派遣された宣教師ミス・カートメルは、明治15(1882)年に横浜へ上陸、築地明石町に居を構え日本語の学習を始めた。その後日曜学校、バイブルクラスや若い女性の集会の指導を行なった。東京で宣教活動が続けるうちに当時の日本女性が教育を受ける機会に恵まれていない事に気づいた。

折りしも明治16(1883)年、カナダ・ミッション(カナダ・メソジスト教会伝道会社)のカックラン、マクドナルドの両氏が東京麻布に学校(男子校)の開設を計画しており、その建設予定地(東鳥居坂町13番地)の下には、ビール醸造場の跡地(同14番地)があった。

明治17(1884)年、ミス・カートメルはマクドナルドの協力を得て、東鳥居坂町14番地に東洋英和女学校を設立した。



明治18(1885)年：
設立当時の校舎

写真提供：東洋英和女学院



明治18(1885)年：
当時の東鳥居坂14番地付近。
高地には東洋英和学校(男子校)が見える。

写真提供：東洋英和女学院

鳥居坂の通りへの移転

東洋英和学校(男子校)は明治28(1895)年、普通科生徒によって麻布尋常中学校を設立した。明治33(1900)年9月には英和学校から分離、キャンパスを麻布本村町に移して麻布中学校となり、ミッションとの関係を薄めていった。この中学校が現在の麻布学園である。この時期に東洋英和女学校は、現在の鳥居坂の通りに面した場所に移転する。

東洋英和女学校の跡地は、明治末年には高木兼寛の所有になっていた。高木兼寛は薩摩藩士で海軍軍医総監に任ぜられ、後に現在の東京慈恵会医大を創立、貴族院議員等を歴任し、男爵も授けられている。



平成22年：現在の鳥居坂下付近

鳥居坂デビュー

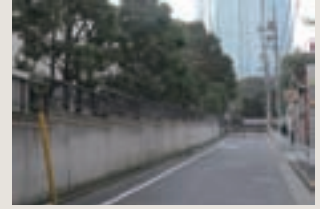
現在東洋英和女学院の建っている場所は、17世紀後半から明治維新までの間は戸田家の屋敷であった。その場所(当時の東鳥居坂町8番地)に明治33(1900)年、木造4階建ての新校舎が開校した。



明治33(1900)年:東鳥居坂町8番地の新校舎(左右とも)



大正3(1914)年:裏手部分に増築、園舎とし幼稚園を開園した。写真右は平成22年:現在の風景



建築家ヴォーリス設計の新校舎へ

昭和8(1933)年には、建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリスの設計による校舎が完成した。ヴォーリスは明治学院大学礼拝堂など、日本各地で数多くの西洋建築の設計を手懸けた。

ヴォーリス設計の新校舎は、スパニッシュミッション・スタイルが建築デザインの基調となっており、特に鳥居坂通りに面する西側正面の外観は、軒のスパニッシュ瓦、外壁の色付きセメント・スタッコ塗り壁を地とし、連続する半円アーチ形窓および出入口が様式的な特徴を表している。また外壁面の所々に配されたレリーフ、飾り窓の手摺り、建物前面を囲いフレアー状の曲面をつくり玄関に接続するロート・アイアンの飾り手摺り(金属類として戦中に供出)など装飾的意匠が表情豊かに配され、格調高い華やかさを添えていた。



昭和8(1933)年:ヴォーリスの設計による新校舎。このころ鳥居坂の通りにはガス灯が設置されていた。

さらなる発展・拡大

東洋英和女学校は順調に発展し、それにともない学舎施設の不足が明らかとなってゆく。昭和4(1929)年、在日本カナダ・メジスト宣教師社団は東鳥居坂町2番地の土地を鍋島桂次郎から購入。学校は新たなキャンパスの建築計画を立てていく。

外苑東通りに面する東鳥居坂町2-1の土地は、明治末年は鍋島桂次郎の所有であるが、同年の地籍図には三井財閥の幹部であった福井菊三郎の名も記されている。

新校舎の完成に先だつ昭和7(1932)年、ヴォーリスの設計による幼稚園、伝道館、西洋教師館ならびに寄宿舍「青楓寮」が竣工した。東鳥居坂2番地の施設等は、昭和15(1940)年に東洋英和に譲渡され、戦時中の没収を免れた。戦後、在日本カナダ合同教会宣教師社団に返還されたが、昭和49(1974)年に同社団より土地を購入、その後、六本木5-16-5(旧東鳥居坂2番地)の敷地は、昭和55(1980)年に売却された。



手前より幼稚園、伝道館、西洋教師館、寄宿舍「青楓寮」



平成22年:現在の風景

平成22年の写真以外について、このページの写真提供:東洋英和女学院

日本キリスト教団鳥居坂教会

明治16(1883)年:マクドナルド宣教師が永坂町50番地に「築地教会講義所」を設立。

明治18(1885)年:同所に「麻布教会堂」新築。

明治22(1889)年:「麻布教会会堂」新築落成。

大正12(1923)年:関東大震災で大破損し、同所に再建。

昭和17(1942)年:法改正に基づき名称を「日本メソジスト麻布教会」から「日本キリスト教団鳥居坂教会」に変更。

昭和20(1945)年:戦災で消失。

昭和23(1948)年:東久邇家跡(現在の六本木5-6-15)に教会堂を建設することが決定。

昭和25(1950)年:新会堂献堂式。



明治から大正時代:新築された麻布教会会堂場所は、現在の東洋英和女学院東門付近。ここにもガス灯がある。



平成22年:当時教会があった場所

永坂孤女院

教会の日常活動として、近隣社会への伝道奉仕活動を展開していた中で、明治27(1894)年頃までに近隣の貧困児童の教育施設である「恵風学校(恵風女学校)」、「孤女院」が麻布一本松に設立された。

恵風学校が明治36(1903)年に廃校となった後も孤女院は置かれ、明治41(1908)年に永坂町50番地に新設された「日曜学校」の2階に孤女院は移転、名称を「永坂孤女院」とした。

孤女院は、大正12(1923)年の関東大震災で一時閉鎖されたが、翌年には再開し、昭和3(1928)年に「永坂ホーム」と改称した。



明治41(1908)年:永坂孤女院

鳥居坂教会・永坂孤女院と東洋英和

鳥居坂教会(旧麻布教会)が東洋英和女学校の地続きにあった頃、生徒達は全員、日曜日には麻布教会の聖日礼拝に出席していました。麻布教会で受礼し、卒業後も教会員として深い関わりを持った者も多かったようです。また、恵風学校と永坂孤女院の設立・運営は東洋英和女学校の宣教師、生徒たちの働きによるところが大きかったようです。

平成22年以外の写真について、このページの写真提供:東洋英和女学院

大名屋敷から財閥の邸宅へ

現在、国際文化会館のある場所は、次のような変遷をたどる。

江戸時代：多度津藩（香川県丸亀市）京極寺岐守の江戸屋敷

明治初期：井上馨（侯爵、外務大臣）邸→久邇宮（明治9年に創設された宮家）邸

→赤星鉄馬（三菱系の実業家、大正銀行頭取）邸

大正12年：関東大震災で倒壊→昭和4年：岩崎小彌太（三菱財閥の4代目総帥）邸竣工

昭和20年：戦火により消失→昭和30年：国際文化会館竣工

戦前のピークをなす建築と

庭園、岩崎小彌太邸

岩崎小彌太邸は大江新太郎設計の和洋折衷の邸宅で、池は建物の下を通り中庭まで達していた。

庭園は昭和5（1930）年、小堀遠州と並び賞される京都の作庭の名人七代目小川治兵衛（植治）に依頼し完成した池泉回遊式庭園。現在もその姿を残す。



昭和8年（1933年）頃：岩崎小彌太邸

写真提供：東洋英和女学院



岩崎小彌太邸 南北立面図

出典：三菱地所所蔵資料

近代建築と日本庭園との調和 国際文化会館

国際文化会館は、国際相互理解の増進をはかることを目的に設立された財団法人で、その建物は戦後国有地となっていた岩崎邸跡地の払い下げを受け、昭和30（1955）年に日本建築界の巨匠、前川國男、坂倉準三、吉村順三の3氏の共同設計により建てられたものである。

昭和51（1976）年には前川國男の設計により改修と新館の増築が竣工。池辺に張り出した釣殿風の建物は平安時代の絵巻物風の様式を取り入れたもので、建物全体はこの庭との調和を図って建築されている。

日本建築学会賞を受賞した本館は、平成18（2006）年3月に「登録有形文化財」にも登録された。



平成22年：国際文化会館

II 未来に向けた新しい麻布

(分科会メンバー作成パネルの紹介)

鳥居坂ものがたり (Aグループ) 麻布小学校 / 麻布区役所

小学校から区役所へ

港区麻布地区総合支所がある場所は以前麻布小学校が置かれていた。

明治36年：麻布小学校→昭和8年：麻布尋常小学校

昭和10年：麻布区役所が市兵衛町2丁目（現在の六本木3丁目）から移転

昭和22年：港区役所麻布支所（平成18年からは麻布地区総合支所）



明治36 (1903) 年：麻布小学校

写真提供：港区立麻布小学校



明治36 (1903) 年：麻布小学校

写真提供：港区立麻布小学校



明治後期～昭和初期：麻布区役所 出典：「港区議会史 通史編」

明治42年、市兵衛町に竣工した麻布区役所。区役所が鳥居坂に移転する際、この建物は、武蔵野市にある日本獣医生命科学大学に移転された。昭和12 (1937) 年に移転した建物は、戦禍を避け、今も校舎として現存している。



平成22年：日本獣医生命科学大学



昭和10 (1935) 年頃：麻布区役所

出典：「港区議会史 通史編」



平成22年：港区麻布地区総合支所

三重の塔の川崎邸

鳥居坂町2-1は川崎金三郎邸であった。彼は千代田生命、千代田火災等の役員をつとめた人物である。土地の所有は定徳会、後に川崎定徳合資会社となる組織である。

川崎邸には塔があったらしく、東洋英和女学校（現在の東洋英和女学院）の新築工事の向こう側にその塔が頭を出している。



昭和7年（1932年）：
奥の三重の塔が川崎邸、手前は建築中の東洋英和女学校。
写真提供：東洋英和女学院



平成22年：塔は現存しないが、手前右の塀（旧三條邸）は現在も残っている。

天文台のある小田邸

山尾家の東側、すなわち永坂側の土地（東鳥居坂町6番地と7-1番地）は三井11家のうちの永坂町家の三井守之助邸があった。しかし、この土地は大正末年には小田良治邸となっている。三井守之助邸は永坂町1番地に移ったのである。小田良治は土地を入手するや大正13（1924）年に、アメリカ人建築家ガーディナーの設計による天文台付きの洋館を建設した。



昭和7年（1932年）：
中央部の丸い建物が小田邸の天文台、手前は建築中の東洋英和女学校。
写真提供：東洋英和女学院



昭和58年（1983年）：
小田邸は、天文台もそのままに、一時フィリピン大使館として利用されていた。
写真提供：小山浩氏



平成22年：現在のフィリピン大使館

山尾邸

現在の東洋英和女学院に土地を提供した山尾庸三は、長州藩出身の幕末から大正時代の人物であった。

江戸で航海術を学び、文久3(1863)年、伊藤博文・井上馨・井上勝・遠藤謹助と共にロンドン・グラスゴーに留学し、さまざまな工学を学び、明治元(1868)年に帰国した。帰国後は工学関連の職を歴任し、明治18(1885)年の内閣制度発足時には法制局の初代長官を務めた。

(右) 残念ながら、山尾邸の当時の写真はないが、その場所は後に企業の事務所となっていた。

(左) 平成23年：現在も、一部に当時の塀を残しているが、ほとんどの部分は集合住宅となっている。



出典：「近代建築ガイドブック」鹿島出版会

三條邸

現在の東洋英和女学院の向かい側には三條公爵邸があった。明治維新後に太政大臣となり、内閣制度発足後には内大臣を務めた三條實美は、明治24(1891)年2月18日に麻布市兵衛町の本邸で亡くなった。その後、当主となった三條公実は、本邸を鳥居坂町一番地に移した。

(上) 平成23年：三條公爵邸の地は、昭和初期に日本銀行の管理地となり、現在は日本銀行の鳥居坂分館等となっている。

(下) 平成23年：現在も塀の一部に三條邸時代の面影が残されている。



麻布地区における洋館

麻布地区にも西洋建築の建物がいくつもあった。それほど昔ではない1980年代には、多くの洋館を見ることができた。現在、それらの多くは既に建て替えられており、中には正確な所在が不明な建物もある。

江戸時代の観光名所（浮世絵から現代） 飯倉交差点



「飯倉四ツ辻」：
『東京名所四十八景』
昇斎一景作（明治4年）
現在の飯倉交差点は交通の要衝であるが、
画中には町人や行商人など、様々な人びと
が行き交う様子が描かれている。絵の左
下に見えるのは江戸湾（現在の東京湾）。

出典：『平成18年度特別展 UKIYO-E 一名所と版元』



明治40年：飯倉四辻

出典：『東京案内』



平成22年：赤羽橋へ
下る小道の途中で見
えた東京タワー。



平成22年：飯倉交差点
不思議な形をした「NOAビル」。



昭和34年：飯倉交差点

写真提供：港区立港郷土資料館

工業地帯だった古川周辺（大正時代の浮世絵から現代） 二之橋



平成22年：川下から望む現代の二之橋。
木造家屋はビルやマンションに変わり、際
には高速道路が通る。日向坂へと続く橋に
は始終、車が行き交う。

「麻布二の橋の午後」：
『東京十二月』
川瀬巴水作（大正10年）
古川の兩岸には木造の家屋が軒を
連ね、水面に空が映し出されている。
当時の清らかな流れをうかが
わせる。

出典：『平成18年度特別展 UKIYO-E 一名所と版元』



平成22年：昔の名残り



平成22年：二之橋付近
橋のたもとから交差点の向
こうを望む。2階に飾り窓
が並ぶ建物は福泉寺。



平成22年：三之橋から二之橋へと向
かう途中の一コマ。川沿いに走る昔
からの道を抜け、大通りに合流する
地点。

麻布の今と昔（Bグループ）

江戸時代の観光名所

飯倉交差点

工業地帯だった古川周辺

二之橋

II 未来に向けた新しい麻布

(分科会メンバー作成パネルの紹介)

麻布の今と昔 (Bグループ)

麻布十番周辺の変遷

／

六本木ヒルズ地区の変遷

ニッカ池及び周辺と毛利庭園へ

麻布十番周辺の変遷



昭和8 (1933) 年：十番大通り
昔は雨が降ると、ぬかるんで歩きづらかったとか。
今はお洒落な麻布十番。

出典：『区勢要覧』



(上) 平成22年：現在の麻布十番通りを、昭和8年当時の写真とほぼ同じ構図で撮影したもの。通りの途中から一之橋方向にレンズを向けている。

(下) 平成22年：現在の麻布十番通り。昭和8年当時の写真とは反対、六本木ヒルズの方に向かって撮影したもの。



六本木ヒルズ地区の変遷 ニッカ池および周辺～毛利庭園へ

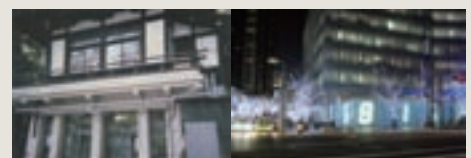
江戸時代、この地には長門府中藩*毛利家の上屋敷が置かれた。明治20 (1887) 年、増島六一郎 (中央大学初代校長) の邸宅となる。昭和27 (1952) 年にニッカウヰスキー東京工場、同52 (1977) 年にはテレビ朝日の敷地となった。平成15 (2003) 年に六本木ヒルズがオープン、現在の毛利庭園が誕生した。(*現在の山口県下関市一帯)



平成7 (1999) 年：ニッカ池
園内の池はニッカ時代、「ニッカ池」と呼ばれた。



平成21年：現在の毛利庭園周辺



(左) 平成7年：庭園脇の邸宅
(右) 平成21年：毛利庭園周辺の夜景

上空からの写真にみる、東洋英和周辺の変遷



昭和39(1964)年：
上空から俯瞰した東洋英和女学院一帯。現在のような高層の建物は見られず、周辺には緑が多いことがわかる。

写真提供：東洋英和女学院



(上下とも)平成22年：六本木ヒルズ展望台から撮影した現在の風景。ひしめくように建ち並ぶビル群。高層階から見下ろすと、積み木のように見える。東洋英和女学院や国際文化会館など、鳥居坂周辺には今なお緑が残る。

昭和の記録 フランス大使館とその周辺の変遷



写真提供：南麻布4丁目 豊田幸雄氏



写真提供：南麻布4丁目 豊田幸雄氏

昭和38(1963)～40(1965)年頃：
現在の都営南麻布4丁目アパート周辺から撮影したの風景。
上部にフランス大使館の旧庁舎(平成22年取り壊し)が見える。



平成22年：都営南麻布4丁目アパートから撮影した現在の風景。



平成22年：建物が解体され、更地になっているフランス大使館旧庁舎跡。

麻布の今と昔 (Bグループ)

上空からの写真にみる東洋英和周辺の変遷

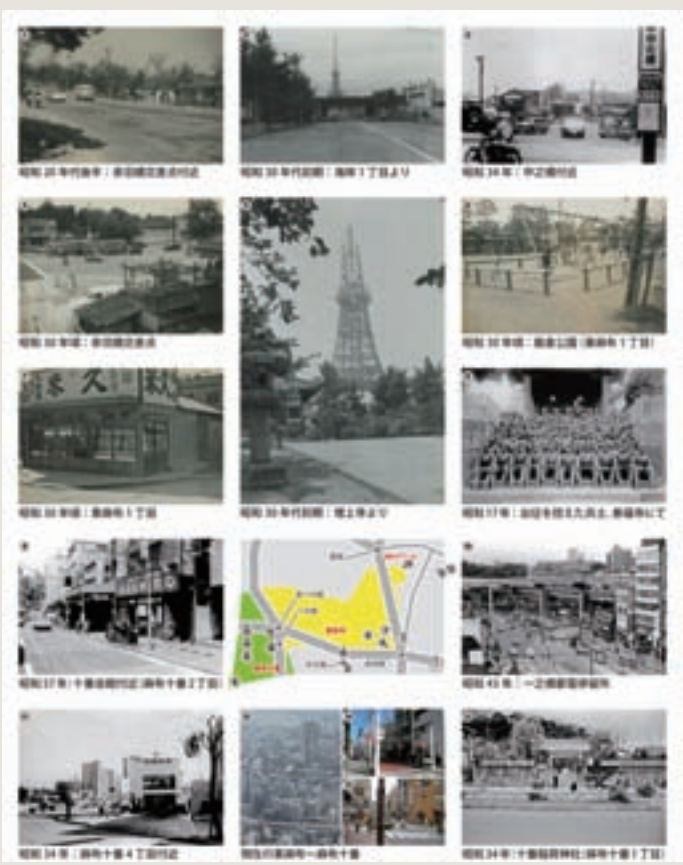
昭和の記録

フランス大使館とその周辺の変遷

麻布の今と昔 (Bグループ) 古い麻布の写真 昭和の記録 (東麻布〜麻布十番) 学校からの写真と今昔

古い麻布の写真 昭和の記録 (東麻布〜麻布十番)

- ①昭和20年代後半：赤羽橋交差点付近
 - ②昭和30年代初期：海岸1丁目より
 - ③昭和34年：中之橋付近
 - ④昭和30年頃：赤羽橋交差点
 - ⑤昭和30年代初期：増上寺より
 - ⑥昭和30年頃：飯倉公園
 - ⑦昭和30年頃：東麻布1丁目
 - ⑧昭和17年：善福寺にて
 - ⑨昭和57年：十番会館付近
 - ⑩昭和43年：一之橋都電停留所
 - ⑪昭和34年：麻布十番4丁目
 - ⑫昭和34年：十番稲荷神社
 - ⑬現在の東麻布〜麻布十番
- ※写真提供：相田清隆氏(①②③⑥⑦⑨)、善光寺桜井慧雄氏(⑩)、区立港郷土資料館(④⑧⑪⑫)



①	②	③
④	⑤	⑥
⑦		⑧
⑨		⑩
⑪	⑬	⑫

学校からの写真と今昔

麻布小学校には、第二時世界大戦時の空襲や戦後の混乱にもかかわらず、明治・大正・昭和の貴重な写真が多数保存されています。

- ①明治44年：創立37周年
- ②明治44年：兵式体操
- ③大正元年：運動会
- ④昭和4年：運動会
- ⑤昭和50年代：旧校舎
- ⑥昭和60年：現校舎完成
- ⑦平成22年：周囲にビルが増えている。

※平成22年の写真以外の写真提供：港区立麻布小学校

東京大学物性研究所 (現 政策研究大学院大学・国立新美術館)



平成11年：六本木上空から



平成23年：六本木ヒルズから
周りに高い建物が建って、景色も一変している。



- ①物性研A棟 (左) 平成10年頃、(右) 平成23年：今はモダンな政策研究大学院大学が立地し、多くの留学生も学んでいる。
- ②物性研Q棟 (左) 平成10年頃、(右) 平成22年：棟の一部が国立新美術館の別館として残されている。
- ③正門 (左) 平成10年頃、(右) 平成23年：最先端科学の研究所は柏に移転し、今は政策研究のスペシャリストを育成している。
- ④裏門から (左) 平成10年頃、(右) 平成23年：冷却池は夏になると、プール代わりに泳いでいる人もいた。
- ⑤テニスコート 平成10年頃：手前の1面が物性研のテニスコートだった。
- ⑥中庭 平成11年：ウサギや大きな尻尾の猫が住んでいた。



このページの写真提供：東京大学物性研究所(長谷川幸雄氏)

麻布の今と昔 (Bグループ) 東京大学物性研究所 (現政策研究大学院大学・国立新美術館)

お江 (江姫) 麻布ゆかりの江戸将軍家の女性

港区を代表する名刹・増上寺は江戸時代に徳川家の菩提寺として発展しました。家康の三男で後に第二代将軍となる秀忠に嫁いだ「お江」も、夫君と共に増上寺の徳川家墓所に眠っています。

お江が55年の生涯に幕を下ろしたのは寛永3(1626)年9月15日。亡骸は増上寺から麻布野に設けられた茶毘所に移され、火葬されました。

麻布地区には、葬列が通ったと言われる我善坊谷、葬儀に尽力した寺院など、お江ゆかりの地とされる場所や史跡が点在しています。



平成23年：俯瞰でとらえた我善坊谷一帯ビルや家屋が密集していてわかりづらいが、地形図(右図参照)で確かめると、一帯が東西に伸びたU字型の窪地になっていることがわかる。



※薄い緑色が低地、濃い緑色が高地。

六本木にひっそりと息づく、お江ゆかりの寺院

寛永6(1629)年、お江の葬儀と三回忌に尽力した教善寺・深廣寺・光専寺・正信寺に寺地が与えられた。



- ①深廣寺
- ②教善寺
- ③光専寺

※教善寺・深廣寺・光専寺は、いずれも非公開となっています(正信寺は他区へ移転)。



平成23年：窪地に設けられた六本木墓苑。戦後の道路拡張に伴い、教善寺・深廣寺・光専寺・正信寺・崇巖寺(いずれも浄土宗)の墓地を崇巖寺の跡地に集約、共同墓地とした。

このページの参考資料：「増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体」(東京大学出版会)、「港区お江マップ」(港区観光協会・港区産業振興課)等

お江ゆかりの麻布を歩く



麻布の名物・風物など (Bグループ) お江ゆかりの麻布を歩く



- ①六本木3丁目：裏通りを東に向かって進み、急な階段を下る。
- ②閻魔坂から空を見上げると……。おや、ビルの屋上に角？
- ③六本木墓苑のフェンスに沿ってぐるりとまわったところ。道が二手に分かれている。
- ④謎めいた小道。私道だが、「昼間は通りぬけます」との看板あり。
- ⑤六本木1丁目(アーク八木ヒルズ内)：「日本国憲法草案審議の地」の碑。
- ⑥麻布台1丁目：横川省三記念公園。
- ⑦昔ながらの木造家屋が軒を連ねる我善坊谷の一角。
- ⑧我善坊谷の住宅街を貫く道を落合坂へと向かう。



※平成23年1月16日(日)まち歩き・撮影による。

未来に向けた新しい麻布

(分科会メンバー作成パネルの紹介)

麻布の名物・風物など (Bグループ) 麻布のいやし、なごみ、いのち 麻布ならではの、現在の麻布名物

麻布のいやし、なごみ、いのち



- ①暑い夏。ハトも噴水で涼をとっているかのよう。(狸穴公園)
- ②羽化したばかりのセミ。羽の色のみずみずしいこと。(有栖川記念公園)
- ③石垣のあいまに、ちょこちょこ顔をのぞかせる緑。(麻布台)
- ④愛嬌たっぷりのカメ。甲羅のてっぺんから水が噴き出します。(ありすの杜)
- ⑤神社の鳥居。「狸穴稻荷大明神」の文字の傍らにセミ。(狸穴公園)
- ⑥カルガモさん、川底に何を見つけたの？(狸橋)
- ⑦のんびり甲羅干しするカメ。どうやら外来種のような。(有栖川記念公園)
- ⑧水源付近で見かけたガマガエル。道路横断中。(元麻布)
- ⑨陽だまりで花と戯れるアゲハチョウ。(南麻布)
- ⑩幼虫から成虫へと姿を変えつつあるセミ。夜のドラマ。(有栖川宮記念公園)
- ⑪サルノコシカケ？(有栖川宮記念公園)
- ⑫その昔、猛火を退けたと伝えられる大ガエルの石像。(麻布十番稻荷)

麻布ならではの、現代の麻布名物



- ①警察の監視台。やぐらの雛形のような独特の形。(飯倉交差点)
- ②道源寺坂の下方から坂上を望む。(六本木1丁目)
- ③ドイツ大使館の外壁を利用したフォトギャラリー。(南麻布4丁目)
- ④夕暮れ色に染まる富士山。(六本木ヒルズ展望台より)
- ⑤筈小学校。地元の子らを迎え続けて100有余年。(西麻布3丁目)
- ⑥福泉寺の時代を感じさせる外壁。二の橋交差点付近。(南麻布1丁目)
- ⑦三角チーズのようなビル。(天現寺橋交差点付近)
- ⑧ビルの狭間に見える東京タワー。(東麻布1丁目)
- ⑨仮面人気投票！仮装の祭典2010～六本木マスカレード。(六本木7丁目)

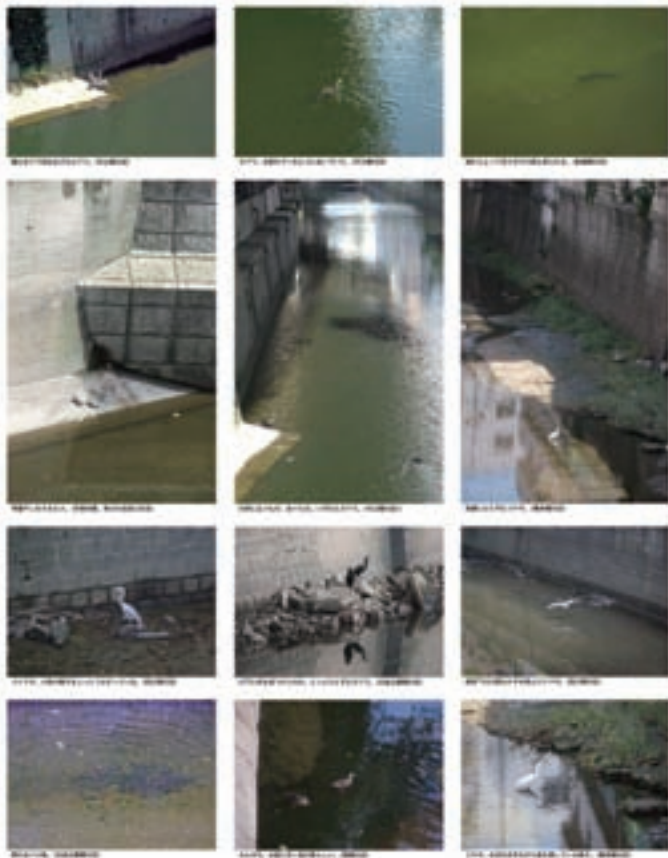
①	⑤	⑨
②	⑥	⑩
③	⑦	⑪
④	⑧	⑫

①	④	⑦
②	⑤	⑧
③	⑥	⑨

(上) 麻布のいやし、なごみ、いのち

(下) 麻布ならではの、現代の麻布名物

古川水系の生き物



- ①陽だまりで羽を広げるカワウ。(中之橋付近)
- ②甲羅干しをするカメ。(天現寺橋、筈川の合流口付近)
- ③ゴイサギ。小魚の様子をじっとうかがっている。(四之橋付近)
- ④群れ泳ぐ小魚。(白金公園橋付近)
- ⑤カワウ。水面をすべるように泳いでいた。(中之橋付近)
- ⑥川岸に立つもの、泳ぐもの。いずれもカワウ。(中之橋付近)
- ⑦川下に何を見つけたのか。じっとたたずむカワウ。(白金公園橋付近)
- ⑧カルガモ。水面に浮く姿が愛らしい。(狸橋付近)
- ⑨海から上ってきたボラの姿も見られる。(新堀橋付近)
- ⑩浅瀬にたたずむコサギ。(養老橋付近)
- ⑪高架下の川面をかすめ飛ぶゴイサギ。(四之橋付近)
- ⑫コサギ。水辺を歩きながら魚を探している様子。(養老橋付近)

素敵ポイント@麻布



- ①拡大版と縮小版? 相似する東京タワー。(麻布台2丁目)
- ②住警器マン。麻布消防署飯倉派出所前にて。(東麻布1丁目)
- ③道源寺の山門脇から見下ろす、道源寺坂。(六本木1丁目)
- ④細くて長〜い、狸穴警備派出所。(麻布台1丁目)
- ⑤ママンという名の巨大なクモ。(六本木ヒルズ)
- ⑥水準点。ふだんは警備用バリケードに隠れて見えない。(麻布台2丁目)
- ⑦路地裏の階段。(麻布台3丁目)
- ⑧常駐する警備隊。(飯倉片町交差点)
- ⑨ビルの谷間に営まれる素朴な朝市。(六本木ヒルズ)

①	⑤	⑨
②	⑥	⑩
③	⑦	⑪
④	⑧	⑫

(上) 古川水系の生き物

①	④	⑦
②	⑤	⑧
③	⑥	⑨

(下) 素敵ポイント@麻布

II 未来に向けた新しい麻布

(分科会メンバー作成パネルの紹介)

よみがえる古川と生き物 天現寺橋～古川橋～赤羽橋

麻布の名物・風物など (Bグループ) よみがえる古川と生き物 天現寺橋～古川橋～赤羽橋

The map shows a route along the river with 19 numbered points:

- ① 天現寺橋
- ② 狸橋
- ③ 亀屋橋
- ④ 養老橋
- ⑤ 青山橋
- ⑥ 五之橋
- ⑦ 白金公園橋
- ⑧ 四之橋
- ⑨ 新古川橋
- ⑩ 古川橋水道橋
- ⑪ 古川橋
- ⑫ 三之橋
- ⑬ 南麻布一丁目児童遊園橋
- ⑭ 二之橋
- ⑮ 小山橋
- ⑯ 一之橋
- ⑰ 新堀橋
- ⑱ 中之橋
- ⑲ 赤羽橋

Surrounding the map are numerous photographs showing various views of the river, bridges, and the surrounding urban environment, including modern buildings, green spaces, and traditional structures.

副座長 近藤 敏康 (Bグループ)

昨年に引き続き、めまぐるしく変化する麻布を、一住民の目線から、現在の生活を、写真とキャプションの形で未来に伝えたいと思い、継続して参加させていただきました。

本年度は、古川水系の生き物、大河ドラマで話題のお江さんと麻布、浮世絵に残る麻布の名所の過去～現在をはじめ、色々なテーマごとに組写真やパネルなどにまとめることができました。

参加者、関係者の皆様に感謝しております。



メンバー 横島 久子 (Aグループ)

私たちAグループは、鳥居坂を中心に撮影することになり、私はまず、江戸時代から明治、大正、昭和、現代までの地図を見ることから始めてみました。時代の流れの中で様々な生活や文化などが見えてくる思いでした。それはメンバーで作った年表からも伺い知ることが出来ます。

当初、鳥居坂の由来でもある鳥居家の位置を示す地図がなかなか見当りませんでした。何処に？どの場所に？と、地図を手がかりに探していた時、延宝年間(1673～1681年)の地図に巡り会いました。それには真っ直ぐに延びる一本道は行き止まりで、そこに鳥居丹波守の屋敷がありました。その後、元禄時代の地図(1699年)では、屋敷の西側が石段状の道となっていることが解りました。

いま、国際文化会館の石垣あたりから坂下に向かってカメラを向けた時、そこに昔あったであろう武家屋敷の佇まいや表門がファインダーを通して見えてくるようでした。

メンバー 増子 照孔 (Aグループ)

私は、娘が幼少の頃に通った鳥居坂教会と麻布会館を懐かしく思います。今は風景が変わりましたが、教会だけは昔のまま残っています。深町先生、東洋英和の学生の方々に大変お世話になりました。日曜学校の終わるのを待ち、お母様方と麻布会館喫茶でお喋りをしたこと、教会で行われた様々な催しでの子ども達の楽しむ声や様子が思い出されます。クリスマスに街歩きをしましたが、当時の鳥居坂は緑多く、ビルも無い静かな通りでした。

「麻布未来写真館」に参加し、昔を思い、または比べたりなどしていますが、他の区民の方々にとって何がプラスになるのか考えています。また、運営については、業者の関わりは最低限にし、区民と職員とが十分に話し合い、もっと協働して取り組める方が良いと思っています。



メンバー 岡崎 純子 (Bグループ)

街は、刻々と変化しています。今だからこそ、未来へ残していけるものを、写真という形で記録していく取り組みである「麻布未来写真館」の意義はとても大きなものだと思います。

「麻布」は、歴史的、文化的、国際的等、様々な要素を持った街です。「麻布」の持つ魅力を、年間3回のまち歩きを通じて、再認識いたしました。

この未来に繋ぐ素晴らしい事業を、港区区民のみならず、より多くの方々に知っていただけたらと期待いたしております。



平成22(2010)年：赤羽橋交差点

メンバー 櫻井 綾 (Bグループ)

ひよんなきっかけから途中参加しましたが、麻布入門レベルの私を温かく迎えて下さったことを、熱意あるメンバーの皆さん及び関係各位に感謝します。

まち歩きでは細い道に入り込み、一人ひとりの生活そのものや痕跡を見る事ができました。それらはアウトサイダーの目で見えてきた全国区の顔とはあまりに違うため、「風景」、「意識」、「東京」など多々考えさせられました。今、まち歩きで撮った現在の写真と、過去のものを見比べながら、時を越えた未来、そして人へと思いを馳せています。



平成23年：まち歩きにて 建てかえ中の道源寺の門構えからビルを望む

メンバー 天羽 大器 (Bグループ)

平成21年度の「あざぶ達人倶楽部初級講座」に参加し、改めて麻布地区の隠れた歴史的資源に触れて、これをもっと他方面の活動に生かしたいと思った時に地域情報誌「ザ・AZABU」で「麻布未来写真館」を知った。

楽しくて、わいわいがやがや出来るBグループの活動に参加して、それまでのまち歩きに加えて写真というツールを使って、麻布の今昔・地形・坂道の面白さを知ったのが「麻布未来写真館」の魅力である。

平成7(1995)年4月に撮影した「ニッカ池」(現在の六本木ヒルズ)周辺の写真が、15年の時を経て「六本木ヒルズ地区の変遷 ニッカ池および周辺～毛利庭園へ」というパネルになったことが古写真の醍醐味である。



平成7(1995)年：ニッカ池

何気なく撮影した写真が人生の中では数多くあるだろう。皆さんの中にも何気なく撮影した写真、引き出しの中に埋もれている写真があるに違いない。

そういう写真を引っ張り出して、眺めて、もし良かったら麻布地区総合支所に提供していただけないでしょうか。

メンバー 磯和子 (Bグループ)

2年目の今年は、少し撮影の技術が上がり、自分の意図を写真に伝えられるようになったかと思いますが、その分説明的で、勢いがなくなったように思います。

これらの経験を踏まえ、来年はさらに遺す風景を写し、失われた風景を探し続けたいと思います。

平成12年：勤務していた頃の懐かしい東大六本木キャンパスの中庭



写真提供：東京大学物性研究所(長谷川幸雄氏)

メンバー 椿由美子 (Bグループ)

この街が好きだ。そんな想いに動かされ、お仲間に加えていただきました。

華やかな印象の大通りも、一本道を入れれば昔ながらの家並みが広がり、古より時を重ねてきた神社や寺院が静閑なたたずまいを見せています。毎年、開花を楽しみにしている早咲きの桜。坂下の公園。そうしたものにどれだけ心癒されてきたことでしょう。

時の流れとともに街の景観は大きく変わり、いまも流転の最中にあります。しかし、いかなる時代においても、街の主役はそこに集まり、生活する人びとのように思われます。

移り変わる街の現在を記録にとどめ、同時に、そこに息づくぬくもりを未来に伝えることができれば。そんなささやかな願いを胸に活動に取り組ませていただいた一年でした。

関係者のみなさま、パネル展をご覧くださいましたすべての方に感謝申し上げます。

メンバー 小山浩 (Aグループ)

とにかく鳥居坂周辺のことを勉強しました。歴史、人物、建築、学校、キリスト教等々。本冊子で鳥居坂の雰囲気を感じていただけたら幸いです。

「麻布は坂が多い」と言われていますが、まち歩きをして「麻布には平らな所が無い」と感じました。「麻布は坂である」と言えると思います。

来年度もメンバー皆さんとしっかり、かつ楽しく有意義な活動を行いたいと思います。



麻布十番から六本木方面を望む。
(ビルが多いので土地の高低差は分かりません)

メンバー 水野禮子 (Aグループ)

今年度より参加させていただき、めまぐるしく変化していく麻布を、未来に残していく建築・風景等、真夏の暑い中、写真を撮って歩き、またAグループのテーマ『鳥居坂ものがたり』では、「江戸時代」・「明治維新後」・「今」の歴史を図書館・インターネット等で調べ、改めていろいろ学ぶ事が出来、有意義な一年となりました。



平成22(2010)年11月：鳥居坂下より

座長 白井 浩之 (Aグループ)

まち歩きをしながら未来へ向けた写真を撮り、また一方で昔の写真を集め、資料をまとめてパネル展示し皆さんにもご覧頂く。「麻布未来写真館」事業を進める中で、我々が昔の写真や資料を集めようとする所に、大きく立ちはだかるのは大震災や戦争などの災害です。これをきっかけにそれ以前の写真や記録の多くが失われてしまっていることを知らされました。昨年度より始まったこの「麻布未来写真館」も2年目を迎え、年度始めにテーマや、パネル展の構想を考える時、東洋英和女学院さんからパネル展会場提供や史料提供のお話をいただきました。

幸いなことに東洋英和女学院さんは戦火から免れたために、多くの貴重な写真が整理保存されております。その写真と会場のご協力をいただけるとの事なので、私たちのグループはこの東洋英和女学院さんがある、鳥居坂周辺をテーマとして取り上げ、『鳥居坂ものがたり』として今期一年間活動してまいりました。

たかだか500m程度の通りですが、江戸から明治、大正、昭和へと近代日本を語る上では極めて特筆すべき地域です。

地形的特長から形成された江戸の町、新しい日本を目指した維新、西洋文化を求めながらの発展やそれへの反発、さらに軍隊のまちへの歩みと米軍駐留、その後の飛躍的な発展。鳥居坂周辺にはその歴史を築いた人たちの影が色濃く刻まれています。調べれば調べるほど、興味深い場所なのです。

鳥居坂周辺を調べていくとその奥は麻布全体へと広がって行きます。日本の歴史文化の舞台として麻布地区が果たした役割を知るにあたり、改めてその大きさに感動いたします。



写真提供：東洋英和女学院

写真は三菱財閥第四代総帥岩崎小彌太の邸宅を中心とする昭和8(1933)年頃の鳥居坂周辺です。岩崎邸の全景を残す写真は調べたところこれだけで、この1枚の写真から当時の文化や歴史のいろいろな要素が読み取れます。東洋英和女学院さんから御提供いただいた非常に貴重な記録写真です。

講師 達川 清 (フォトグラファー)

木立の奥、夕日に映える東京ミッドタウン。
麻布地区総合支所前の静かな時。
この佇まいが一変するのは近いことでしょう。
麻布の未来にこの写真を届けます。

2011/02/25/16:57

P.S.新メンバーの参加で、昨年よりも増して
熱意のこもった一年になりました。



港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和 60 年 8 月 15 日

港 区

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成22年度 活動報告

刊行物発行番号
22252-1435

平成 23 (2011) 年 3 月 発行

発行 港区 麻布地区総合支所 協働推進課

〒106-8515 東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号

電話 03-5114-8812

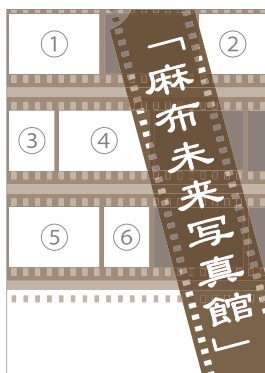
《主な参考文献・資料等》：「増補 写された港区 三(麻布地区編)～麻布・六本木ほか～」港区教育委員会

《古写真について写真等資料提供・出典等》：相田清隆氏、黒鉄ヒロシ氏、小山浩氏、善光寺 桜井慧雄氏、南麻布4丁目 豊田幸雄氏、学校法人東洋英和女学院、東京大学物性研究所 長谷川幸雄氏、港区立麻布小学校、「近代建築ガイドブック」鹿島出版会、「JOSIAH CONDER」建築画報社、港区立港郷土資料館（「平成18年度特別展UKIYO-E—名所と版元—」、「東京案内」、「区政要覧」等）、「港区議会史 通史編」港区議会、(順不同)

《技術・会場協力等》：富士フィルム株式会社、学校法人東洋英和女学院、ありすの杜 南麻布

ファイnderをとおして、
未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成22年度 活動報告 港区麻布地区総合支所



表紙の写真

- ①明治36 (1903) 年：「麻布小学校」(写真提供：港区立麻布小学校)
- ②昭和30 (1955) 年頃：「飯倉公園」(写真提供：相田清隆 氏)
- ③昭和8 (1933) 年：「ヴォーリスによる新校舎とガス灯」(写真提供：東洋英和女学院)
- ④明治18 (1885) 年：「現在の麻布十番付近から丘の上を望む」(写真提供：東洋英和女学院)
- ⑤昭和8 (1933) 年頃：「鳥居坂周辺 (現在の国際文化会館周辺)」(写真提供：東洋英和女学院)
- ⑥明治41 (1908) 年：「永坂孤女院」(写真提供：東洋英和女学院)